

「格好良く綺麗に！」

紋別高等養護学校

あす北海道新体操大会へ

紋別高等養護学校(佐々木建校長)の新体操部(市原愛暉部長13年、部員6人)は、28日に北海道立野幌総合運動公園で開かれる第26回北海道新体操大会に初めて参加する。24日に校内で開いた試技会では、出場する男女部員4人が団体演技を披露。「3年生の」私たちはこれで最後。精一杯頑張ってきたい」などと抱負を述べた。

3年前に赴任した永易健太教諭(35)が、中学生時代から打ち込んでいる新体操の魅力を生徒たちに伝えようと、昨年、同好会を設立。さっそく第3回全日本クラブ選手権大会のエキシビジョンに参加し注目を集めた。今年4月には部へ昇格。これを見越して永易教諭は北海道大会を主催する北海道体操連盟へ、男女混合ミック

ス部門の新設を要請していた。このほど大会ルールが改正され、オープン参加の形ながら男女ミックスマックスで出場することが可能になったという。同部が取り組んでいるのは男子種目の演技で、女子種目のようなボールやリボンといった手具は使わない。音楽に合わせて床面を縦横無尽に動き回り、宙返りやバランス技などを次々と決めていく。



北海道新体操大会へ出場する4人の演技

に成功したり、開脚などのポーズが決まったりするたびに、見守る生徒たちから歓声と拍手が沸き上がった。

演技を終えて4人は「先輩の足を引っ張らず、精一杯楽しみたい」「最後まで諦めず頑張るので、応援をよろしく」などと挨拶した。

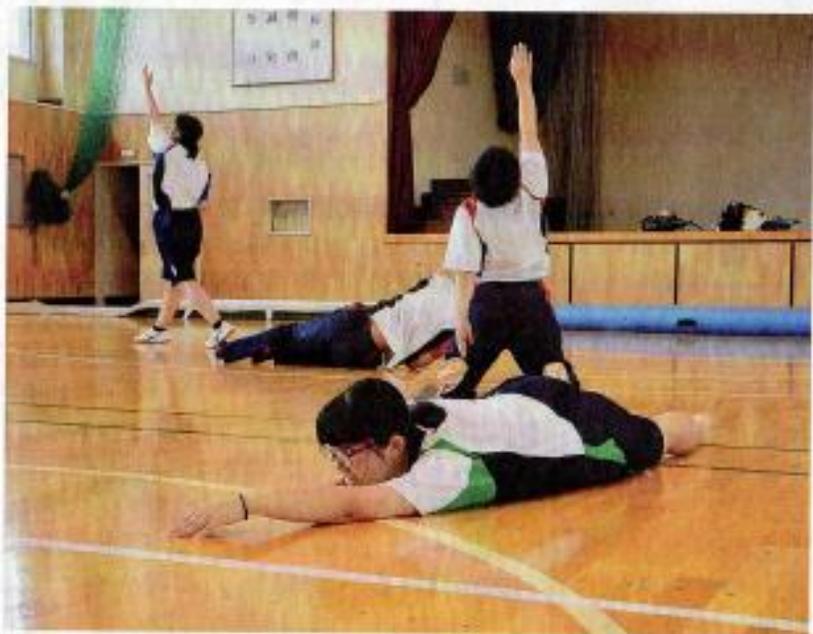
市原部長は、初めて克服したハンドスプリングが得意技。「本番でも成功させ、格好よく綺麗な演技をした」と意気込む。もう1人の3年生部員も「4人で力を合わせ、完璧な演技をお世話になった永易先生に見せたい」と笑顔で語った。

永易教諭も、こうした生徒たちの成長ぶりに頼もしさを感じている様子。「今日は守るべき注意点をしっかり守ってくれた。本番は緊張すると思うが、失敗しないようサポートしたい」となみ話していた。

紋別高等養護学校に今春誕生

新体操部 公式戦デビュー

大会前に校内で開いた
試技会で、同級生や先
生に新体操の演技を披
露する部員



【紋別】紋別高等養護学校に今春誕生した新体操部が7月下旬、江別市で開かれた北海道新体操大会の男女混合団体の部で、念願の公式大会デビューを果たした。新体操経験のある永易健太教諭(35)の呼び掛けで昨年、同好会としてスタートし、部に昇格。永易教諭の働きかけで、大会に混合団体の部が新設された。晴れ舞台に立った部員は「支えてきてくれた先生に恩返しできた」と喜びをかみしめている。

(泉本亮太)

男女混合チーム「先生に恩返し」

新体操は、選手が音楽に合わせて床の上で躍動的な動きを見せ、技術力や芸術性を競う。小学生から大学まで新体操を続けてきた永易教諭は「筋力不足になりがちな生徒に役立つ」と、新体操同好会の設立を発案。現部長の市原愛瞳さん(3年)らを誘い、昨年10月、全国大会のエキシビジョンで演技を披露した。

これらの活動が認められ、今年4月に創部。部員は大会への公式参加を目標に週4日、1時間半ずつ体

育館のマットで前転や宙返りなどの練習を重ねてきた。

北海道新体操大会に女子3人男子1人の混合チームで出場を希望したが部門がなく、永易教諭が主催の道体操連盟にかけあい、特別に新設された。

7月28日、同部門に唯一出場した4人は「多くの観客に動揺した」というが、ジャンプや宙返りなどの技を恩を合わせながら披露し、練習の成果をぶつけた。市原部長は「緊張したが、全力を尽くせた」。益子瑠依さん(2年)は「出場できて本当に良かった。先輩がつくれたこの部が続いていくよう、頑張りたい」と気持ちを新たにしている。

永易教諭は「少人数でも練習に励んできた生徒が、出場機会をもらえて良かった。大会に出たことで部員がもっと増えてほしい」と願っている。

紋別高等養護 新体操部

息合った演技で魅了

公式大会に初出場

【網走発】紋別高等養護学校（佐々木建校長）新体操部は、7月下旬に江別市内の道立野幌総合運動公園体育館で開かれた第26回道新体操大会に、新設の団体ミックスの部で出場した。同校が大会主催者の道体操連盟に要望し、男女混合での公式大会出場が実現。生徒たちは息の合った演技を披露し、会場を魅了した。

同校新体操部は、前年度に体操同好会として発足。第3回全日本男子新体操クラブ選手権大会兼第26回全日本社会人男子新体操選手権のエキシビジョンに男女ミックスで参加し、成功を収めた実績などを踏まえ、本年度から部に昇格した。1～3年生の男女合わせて6人が所属している。

道新体操大会に団体ミックスの部はなく、変更前の大会ルールでは、すべての生徒が公式な大会に出場できる機会がないと判断した顧問の永易健太教諭は、「誰にでもチャンスが与えられるように」との思いから大会を主催する道体操連盟に部の新設を要望。本年度、ルールが変更され、オーブ

ン参加の形ながら同校の出場が実現した。

大会には、男女混合の4人で出場。本番に向け、徒手体操やバランス技、タンブリングなど、1日1時間・週4回の練習を積み重ねてきた。

大会当日は、会場の応援を受けながら息の合った動きや技を次々に決め、見事に3分間の演技をやり切った。

永易教諭は「今回の演技は昨年よりもレベルが上がり、気持ちの伝わるいい演技だった」と振り返った。

「今後も障がいの有無にかかわらず、新体操を通して、得意分野の生かし方や、仲間や周囲に合わせる力、挑戦する気持ち」を育て、社会生活でも生きる考え方を身に付けさせていきたい」と語った。



演技を披露する生徒たち